

平成 19 年度第 5 回大学図書館近畿イニシアティブ能力開発専門委員会議事概要

1. 日 時 平成 20 年 1 月 15 日 (火) 14 時 00 分～17 時 30 分

2. 場 所 花園大学教堂 2 階 同窓会会議室

3. 出席者 (順不同、敬称略)

京都大学附属図書館	渡邊英理子
神戸大学附属図書館	石定 泰典
大阪府立大学学術情報センター	赤崎 久美
京都府立大学附属図書館	伊藤 務
近畿大学中央図書館	鹿田 昌司
大阪国際大学総合メディアセンター枚方図書館	尾崎 茂夫
花園大学情報センター (図書館)	福島 丞
京都産業大学図書館	近江由紀子
大阪大学附属図書館	大西 直樹
関西学院大学図書館	中村 順治

4. 議 事

1) 平成 19 年度中級研修のまとめについて

前回議事概要の確認を行った後、各委員が作成したまとめの報告書をもとに報告が行われ、特に次のような問題点、課題の指摘があった。

- ・ 情報交換会キャンセル時の扱いが明確になっていなかった。
- ・ パネル展示の企画にもう少し早く取り掛かることができればよかった。
- ・ 大学以外の講師への謝金の支出基準がやや曖昧である。また、遠距離講師の場合の宿泊費の支出基準を詰める必要がある。
- ・ 次年度以降も賛助会員収入が確保できるか問題である。
- ・ 全般的に準備が遅れ気味でスケジュールがきつくなった。
- ・ 受付は会計事務を伴うので、会計担当者を受付に入れるのがよい。
- ・ 講師の誘導がうまくできなかった。
- ・ 障害のある方の受講について運営委員会で議論してもらう必要があるのではないか。
- ・ 研修記録の公開が進められればよいと思う。
- ・ 賛助会員への資料配布の取り決めができていない。
- ・ 運営委員会事務局と専門委員会の業務分担を明確にする必要がある。
- ・ アンケート結果が一昨年度は HP で公開されているが、昨年度は公開されていない。広報・Web 専門委員会との連絡・調整が必要である。
- ・ 委員の役割分担をもう少し考える必要があったのではないかと。
- ・ 近畿イニシアティブとしての中級研修の特色をどう出していくかに課題が残る。
- ・ 音声、写真等、記録の使用方法が明らかでなかった。使い方が決まっていればそれに合わせた記録方法もあったのではないかと。
- ・ 講師の選出に手間取った。
- ・ 質疑の時間が短かった。

- ・ タイムキーピングが必要ではなかったか。
- ・ 事例報告も冊子に入れることができればよかった。
- ・ 講師の方から感想を聞けたらよい。

以上の報告を踏まえ、運営委員会への実施報告書は鹿田主査が原案を作り、メーリングリストで検討することとした。また、研修記録の公開については、運営委員会に公開する方向で提案することとした。

2) 平成 19 年度その他の能力開発事業について

本年度は、協賛事業 2 件、共催事業 1 件を実施しているが、運営委員会への報告について検討が行われた。前年度は報告書に盛り込んであるので、参加者数等の事実と資料程度の報告をすることとし、大西委員、赤崎委員が該当事業について、2 月初めに参加者数等を簡単にまとめることとした。

また、2 月 29 日に大阪大学で行われるシンポジウムが協賛になるかも知れないので、大西委員が確認することとした。

3) 能力開発事業アンケートについて

石定委員が入力したデータをもとに、運営委員会への報告形式について検討が行われた。そのままでは報告用としては見づらいので、数字の部分をもとめる形に修正することとなった。

4) 平成 20 年度研修事業について

平成 20 年度に実施する基礎研修について意見交換を行った。主な意見は次のとおりであった。

- ・ 全体の枠組みを維持するならこれまでどおり網羅的な内容がよいのではないか。
- ・ アンケートの数字から見て、今後は派遣職員等、非正規職員の新人が増えることが見込まれ、継続する必要があるが、派遣職員に全体の業務を知ってもらう必要があるかという疑問はある。
- ・ 大学の規模にもよるが、非正規職員の割合が多いところで 2 日の日程が可能だろうか。テーマ別に 1 日の日程で、何回か実施することも考えられる。
- ・ これほど非正規職員が増えるとは予想していなかったと思われるが、非常勤職員にも業務全般を理解してもらいたい場合もあれば、派遣職員などでは各自の仕事以外にあまり興味を示さないこともある。正規職員と非正規職員ではニーズが異なると考えられる。
- ・ 対象者を経験 3 年以内に限定する必要はないのではないか。研修内容に適した人なら誰でも参加できるようにしてはどうか。

検討の結果、基本的に網羅的な内容として、2 日間の日程で主査が検討案を作成することとなった。

5) その他

研修関係資料、記録等を専門委員会事務局担当者が保管し続けるのは無理があるとの意見が出された。検討の結果、事務局担当者が保有している資料の目録を作成し、運営委員会に保存基準の検討を提案することとした。

また、事務局の担当変更について意見交換を行った。

以 上